考古資料担当より

名勝名古屋城二之丸庭園の発掘調査

二之丸庭園は初代尾張藩主徳川義直の時代に造営が開始されました。義直期の庭園は儒教の影響を受けた中国風の庭園で、その姿は『中御座之間北御庭惣絵』（名古屋市蓬左文庫蔵）に描かれています。その後、10 代藩主斉朝により、庭園は大きく改変されました。庭園範囲を東部へ拡大し、築山や園路、茶席が造られるなど回遊式の大名庭園となったのです。斉朝による庭園は『御城御庭絵図』（名古屋市蓬左文庫蔵）に描かれているような姿だったと考えられています。

明治になると二之丸は陸軍省所管となりました。二之丸御殿や茶席が取り払われ、兵舎が建設されました。二之丸御殿の跡地には将校集会所が建設され、その南側には新たに庭園が造られました。江戸期の二之丸庭園は現在の北園池や栄螺山がある北御庭の一部を残してその姿を失ってしまったのです。残された庭園は現存する城郭庭園として貴重であると評価され、昭和 28 年（1953）に名勝指定を受けました。

平成 25 年度（2013）からは庭園の保存整備事業を実施しています。これに伴い、江戸期の庭園がどのような姿だったのか明らかにしていくため、発掘調査や絵図等文献資料の調査を継続的に行っています。これらの調査成果により、平成 30 年（2018）には名勝の追加指定を受け、指定範囲は庭園全域に拡大されました。

発掘調査は令和３年度で第９次となりました。江戸期の庭園遺構は、陸軍による兵舎建設などによる造成で破壊されている箇所も多いですが、破壊を免れた良好な遺構も見つかっています。

発掘調査では、主として『御城御庭絵図』に描かれた斉朝時代の庭園遺構を明らかにしようとしています。

『御城御庭絵図』は絵画的な表現がなされており、距離感などは実際の遺構と合致していない点もありますが、大まかな建物配置や個別の描写は遺構と概ね整合していることが分かってきました。また、絵図には描かれていない細やかな意匠が確認されたのも発掘調査ならではの成果と言えます。例えば、茶席の１つである「多春園」跡ではベンガラで赤く化粧した三和土を確認しました。

今後も引き続き発掘調査を行い、江戸期の名古屋城二之丸庭園の様相を明らかにしていきます。かつて藩主の庭として隆盛を誇った二之丸庭園を市民の皆様にも鑑賞していただけるよう整備するとともに、調査成果の発信にも積極的に取り組んでいきたいと思います。（学芸員　花木ゆき乃）

▲発掘調査の様子（令和3年度〔2021〕調査）

▲発掘調査で明らかになった建物跡の意匠（茶席「多春園」跡）（平成27年度〔2015〕調査）

令和4年3月　発行
名古屋城総合事務所　名古屋城調査研究センター
〒460-0031愛知県名古屋市中区本丸1番1号　電話：052-231-1700　FAX：052-201-3646
http://www.nagoyajo.city.nagoya.jp

第3号　2022 3

名古屋城 調査研究センターだより

西の丸御蔵城宝館オープン

令和３年 11 月１日に新たな城内施設として西の丸御蔵城宝館がオープンいたしました。江戸時代の名古屋城西の丸には年貢米などを収納する御米蔵が６棟置かれており、西の丸御蔵城宝館はかつての三番蔵と四番蔵の外観を復元した鉄筋コンクリート、一部鉄骨造の平屋建て建築です。南側の三番蔵内部は、名古屋城の歴史を常設展示で紹介する歴史情報ルームと、オリジナルグッズを販売するミュージアムショップ、北側の四番蔵内部は重要文化財・名古屋城旧本丸御殿障壁画をはじめ、戦災焼失前の名古屋城の姿を克明に実測した「昭和実測図」や、「旧名古屋城写真原版」など、名古屋城所蔵の貴重な文化財を保管する収蔵庫が設けられています。

「御蔵城宝館」という名前には、城の宝である文化財を保管する「御蔵」と「城宝」を保存して後世に伝え、名古屋城に関するさまざまな「情報」を発信する施設という意味が込められており、三番蔵と四番蔵間の展示室では、所蔵する文化財をテーマごとに順次公開する企画展を年に複数回実施します。

現在、西の丸御蔵城宝館の周囲は整備途中ですが、今後の調査で他の御蔵跡の場所を特定します。また、三番蔵の南西部にある国指定天然記念物のカヤの木も、背後から近づいて見られるようにします。このカヤの木は、樹齢 600 年といわれ、名古屋城築城以前からの古木で、江戸時代中期頃まではこのカヤの実が尾張藩主の食膳に出されていました。空襲により被害を受けましたが樹勢を回復し、毎年夏には多くの実を付けます。幹の背面には真っ黒に焼けただれた跡が残されており、空襲による火災のすさまじさを物語っています。

かつての西の丸は、御蔵と高塀によって囲まれ、南側の東西方向に設けられた一番蔵と二番蔵の間の御門から出入りする構造になっていました。そのため、囲われた空間を意味する「構」と称されており、今後の復元整備計画では、他の蔵跡を平面表示で示し、往時の空間を再現します。西の丸御蔵城宝館の企画とともに、名古屋城の今後の整備にご期待ください。（主査　原史彦）

西の丸御蔵城宝館
NISHINOMARU OKURA MUSEUM

西の丸御蔵城宝館のロゴマークと外観（南東から）